

能美市照隅会とのタウンミーティング

日 時 令和5年7月20日（木）16時30分～17時10分

場 所 八松苑

参加者数 23名

1. 開会

2. 市長講演「スマートインクルーシブシティ」

【市長】

・インクルーシブの意味は、「誰一人取り残さない」、いわゆる能美市が目指す地域共生社会。スマートは、デジタル。デジタルの力を使って、インクルーシブなまちを目指していくということ。

・能美市の予算編成について、今年度の新たな方針目的として、5つを掲げた。

1つ目は災害対策。昨年8月4日の大雨を受けて、しっかりと対策を施していく。

2つ目は知名度・認知度の向上。北陸新幹線県内全線開業を来年に控え、いかにその効果を最大限に生かすか。あるいは、今企業誘致が好調で人材を確保していきたいという思いの中でいろんな取り組みをしているんですけども、能美市の知名度がまだまだ低いので向上させたい。

3つ目は市民力・地域力の強化。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、一つ一つの交流が制限されたことに伴い、この市民力、地域力がだいぶ落ちてきているように感じる。特に最近感じるのは、壮年団の所属人数の減少。地区によっては女性会が解散するところも出てきている。この市民力・地域力をもう1回強化していきたい。

4つ目は自然動態の増進。今能美市は社会増。国が異次元の少子化対策をやっているので、能美市版の異次元の少子化対策をやっている。

5つ目はGX。カーボンニュートラル。2013年に排出をしたCO₂の量に対して2030年に半分、2050年にゼロにしようということで、世界中でカーボンニュートラルに取り組んでいる。お店もカーボンニュートラル宣言し、CO₂の削減に良い取り組んでいこうということで、そういったことをデジタルの力を使ってやっていく。

- ・市民の皆さん的安全安心の確保に繋げていこう、市民サービスを向上させていこう、老朽施設の長寿命化、働き方改革、財源の創出というようなことを、ベンチャーの力を使ってやっていこうというもの。
- ・デジタルのいろんな取り組みを進めている。これまでとりかかった現在進行中のものを説明。

「ウェブ健康手帳」。これまで母子手帳というのが紙ベースでありました。それを今、デジタルベースで進めることによって、小さい頃どんな病気があってどんな処方をしてどんな薬があるんだということで、全部一気に分かるようにしましょうということで始めている。

「出欠管理」。保育園、小学校、中学校。以前は保育園の先生が体調を全部昼休みの時間使って鉛筆で書いてたが、それが全部メールに変わった。小学校や中学校も、保護者の皆さんに行事や注意事項を全部メールで流すようにしている。

「のみバス」。自分が乗りたいバスが今どこを走っていて、混雑しているかどうかがスマートフォンで分かるようになった。ダイヤやルートも確認できるようになっている。このようなデータを基に、ルートをどう変更していくかということもやっている。

「ゴミ出し」。ゴミ出しアプリを登録しておくと、明日はゴミの日ですよ、明後日は危険物ですよというようなことをスマートフォンでお知らせする。

「道の修理」や「道路標識の設置」、「空き家の管理」も、町会長・町内会長さんのご協力を得て、今まで紙ベースだったものを全部今デジタルで統合し、何かあればまた更新するようにし始めている。

「教育力の向上」。市内の小中学校は全員タブレットを持って授業を受けている。先生も電子黒板を活用した内容に変わってきている。

「電子図書館」。図書館に行かなくても、パソコン上で本が読める。

消防では、ドローンや、はしご車、最新の救急車等々にも、デジタル技術を活用したものがどんどん入ってきている。

「能美市公式LINE」。今までの防災行政無線を使った情報では、その場所にいないと聞き取れないということから、スマートフォンでいろんな情報をお届けするように切り替えてきている。

「タブレット」。現在は町会長・町内会長、民生委員、児童委員などの皆さんにも今持つていただき、様々な活用をしていただいている。

「みまもり安心マップ」。一人暮らしの高齢者の皆さんのご自宅には、今までではアナログベースで置いてありました。どんな病気にかかったかなどのデータをクラウド上に溜めていき、ケアマネージャーが必要なときに情報を取れるようにしようということをやり始めている。

行財政改革では、窓口でもいろんなサービスの向上をしている。マイシティレポートというアプリを活用し、道路や市施設のちょっと壊れてるようなところや異常があった場合に、携帯電話のカメラで撮ってもらい、市役所へ連絡するような仕組みも入れている。ペーパーレスに関しては、市役所の主だった部署は4か所に分かれています、本庁舎に来るのに時間もかかるしガソリン代も必要ということから、Web会議をたくさん取り入れているというようなこともやってる。

農村DXを推進するために、イメージビデオを作った。デジタル技術を使った農機をどんどん取り入れて、そしてこの農業をさらに進歩させよう、あるいはイメージビデオを見ていただくことによって、今まで農業に興味がなかった人や子どもたちが「やってみようかな」というようなきっかけ作りにもなればということから、こんなような取り組みもやっている。

・そして、これから取り組みとして、能美市は内閣府のデジタル田園都市国家構想推進交付金を2年連続いただくことができた。

事業内容については、まずは「オンライン医療相談」ということで、子どもが夜中に体調が悪くなった場合、なかなか問い合わせ先がない。そこで、オンラインで医療相談ができるようにした。子どもが今こんな状況で、どうすればいいかと文字で送ると、専門の医師あるいは看護師がどうすればいいかを返してくれる。どこの病院に連れて行けばいいかについても、きっと返してくれるサービスを始めた。

そして、「体調管理」ということで、一人暮らしの自宅に特殊な空気清浄機を置くことで、空気の成分を分析し、そこに住んでいる人が今どんな状態か分かる。救急、緊急の場合等も分かるようにしていくことも今考えている。

それから、腕時計みたいなものをつけ、心拍数だとかあとは血圧だとか、その他のデータも取れるようにしておき、日々の体調管理に使うようなことも考えている。

それから、将来的な話ですが、地域電子マネーも取り入れたいという思いもある。

「オンデマンド交通」ということで、のみバスは決められたルートを走っているが、例えばタクシーのように皆さんから連絡いただいた場所にバスを走らせるような、そんな仕

組みを今後考えていくべきと考えている。

「デジタル公民館」ということで、市内に約80の公民館があるんですけども、そこにWi-Fiの機能を備えておいて、いろんなことをやろうと。例えば、そこで出前講座やスマホ教室など。公民館で、かかりつけ医とオンラインで向き合って診断してもらうことができれば、病院やクリニックに行かなくてもよくなる。買い物では、インターネットから欲しいものを注文をし、公民館に届けてもらうような仕組みも考えていきたい。他のいろんな手段を使って、お店に行かなくても、公民館にさえ行けば、いろんなものが受け取れるというようなことを目指して進めていこうということ。

大きく分けると3本柱で、「安心子育て・在宅生活」、「防災と基盤づくり」、「デジタル公民館」。

それからなんで能美市が今デジタル技術をどんどん導入してるんだ、何が良くなるんだ、何が便利になるんだということを、もっと皆様にわかりやすく情報を提供できるようにもしていかなければと思っている。

3. 質疑等

【参加者】マイナンバーカードについて。能美市の普及率が良くないことで、どんな問題が出ているのか。

【市長】約80%で、全国より5ポイントぐらい高いはず。交付率も申請率も。全国的には、人的なミスが出ているようで、ここをきっちとすれば、問題はないのではないかと思う。

【参加者】マイシティレポートは、どうやったら使えるようになるのか。

【市長】能美LINEから市ホームページのマイシティレポート紹介ページに行き、登録することができる。

【参加者】電子図書館について

【市長】いろんな本が購入できるわけではなく、財源を活用し分野を特化してやっている。みなさんからのリクエストも聞きながら、アップデートして登録している。たくさんの方に利用していただいている。

4. 閉会